

# 震災を通して学ぼう！ 〈テーマ発掘プロジェクト②〉

現地に足を運んでみよう！

山田町編



# 趣旨・実施主体

## ■趣 旨

岩手県立図書館が収集している「震災関連資料」から「テーマを発掘」して、「他の皆さんに伝える」調べ学習を行います。

## ■実施・関連団体

岩手県立大学、岩手県立図書館、岩手県立図書館指定管理者（TRC）

## 行程表

- 07:20 集合 (盛岡駅西口 マリオス1階入口前 道路)  
07:30 出発
- 10:00 「海と鯨の科学館」 着  
自由見学(60分)  
講和・質疑(11:00から30-40分程度)  
(館長の湊さんよりお話をいただく)
- 11:50 「海と鯨の科学館」 発  
(移動5分程度)
- 12:00 「山田かき小屋」 着 (昼食 滞在60分程度)  
※食事代は実費にてお願いします。  
※内容は事前希望にて伺います。  
※牡蠣メニュー以外は、海鮮塩焼きそば、ホタテの卵とじ丼があります。
- 12:50 「山田かき小屋」 発  
(移動15分程度)
- 13:00 新生やまだ商店街駐車場(セブンイレブン山田町中央店)前 着  
13:30 「被災ガイド(復興まち歩きつまみ食いつァー)」(90分程度)
- |       |   |
|-------|---|
| 13:30 | 「セブンイレブン山田町中央店」前集合<br>ご挨拶後、御蔵山(セブンの裏手にあります)にて<br>震災当時と、現在のお話を伺う |
| 13:50 | 五篤丸水産へ移動(徒歩1分もかかりません)<br>カキ・ホタテむき体験、のしか体験                       |
| 14:15 | 五篤丸水産出発<br>徒歩でオールという共同店舗(中心地)へ向かう                               |
| 14:25 | 到着。駅前で語り部<br>(震災からの状況、など)                                       |
| 14:35 | 太田幸商店<br>山田せんべい揚げ体験   |
| 14:40 | 太田幸商店出発   |
| 14:50 | 「セブンイレブン山田町中央店」前到着。質疑応答   |
| 15:00 | 終了  |
- 15:00 周辺散策(自由行動・60分程度)  
16:00 新生やまだ商店街駐車場 発  
(移動10分程度)  
16:15 「道の駅やまだ」着(自由見学・30分程度)  
16:45 「道の駅やまだ」発
- 19:00頃 盛岡駅西口 マリオス1階入口前 着 解散

## 基本情報 1 (山田町について)

山田町は陸中海岸のほぼ中央に位置し、山田湾と船越湾の二つの湾を擁しています。

その沖合では親潮と黒潮が交差し、世界でも有数の漁場です。豊かな漁業資源に恵まれた海産物は、殻付きカキ、イカ、アワビ、ウニ、ホタテ、ワカメ、サケなどをはじめとして、海の四季おりおりを感じる味覚に満ち満ちています。

船越半島は、壁岩・磯・赤松など海岸性原生自然の景観に優れ学術的にも価値が高く、本州に残された最後の秘境ともいわれ、昭和 30 年には国立公園に指定されています。

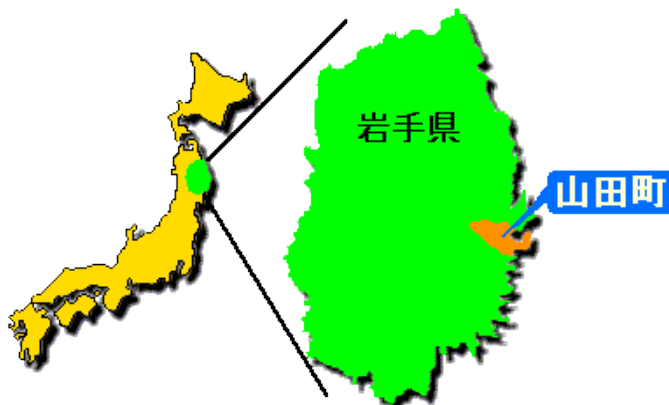
その素晴らしい景観に恵まれた三陸の大地には、有史以来忘れることができない津波が押し寄せ、大きな災害も幾度か経験し、その都度町は痛手を負いながらも再建されてきました。

歴史的には、1643年にオランダ船プレスケンス号が山田湾に入港。水、食料、野菜を補給するために入港した船員に町の人々は温かいもてなしをしました。それがきっかけで 350 年を経た平成 5 年にオランダ王国との文化交流が始まりました。ユース年代を迎えてのサッカー交流や、オーケストラの公演など、まさにヨーロッパの香りが届けられているのです。そのような史実により山田湾内に浮かぶ島をオランダ島と命名しています。(山田町ホームページより)

(平成 29 年 11 月 1 日現在)

■人口…16,012 人

■世帯数…6,664 世帯



## 基本情報 2 (山田町の主なあゆみ)

町内で発掘された遺物・遺構から見ると、縄文時代早期約6,500年前には、人々が生活していたと思われる。(山田町ホームページより)

715年(霊亀元年)	蝦夷の“須賀君古麻比留”が、「閉村に郡家を建てて下さい」という記述が『続日本紀』にあり、この頃には当地方にも国政が及んでいたことが推測される。
1643年(寛永20年)	山田湾にオランダ船ブレスケンス号が水・食料を求めて入港するが、オランダ人10名が南部藩に捕らえられ江戸に護送される。
1735年(享保20年)	南部藩の領内が33通りに整理され、豊間根地区は宮古代官所の管轄に、大沢・山田・織笠・船越地区は大槌通りとなり大槌代官所の管轄になる。
1868年(明治元年)	陸奥国は分割され、当地方は陸中国に属することになる。
1889年(明治22年)	市町村制実施。飯岡村・山田村は合併し山田町となる。豊間根村・大沢村・織笠村・船越村が誕生する。
1896年(明治29年)	三陸沖を震源とする地震、大津波が発生。本町の死者は約2,950人、負傷者は約1,370人。その他、家屋の流失や全壊等多くの被害を受けた。
1933年(昭和8年)	三陸沖を震源とする地震、大津波が発生。本町死者・不明者は18人、負傷者は12人。その他、家屋の流失や全壊等多くの被害を受けた。
1935年(昭和10年)	国鉄山田線—盛岡駅～陸中山田駅間が開通。
1948年(昭和23年)	県立山田高等学校創立。
1950年(昭和25年)	県立山田病院開設。
1955年(昭和30年)	山田町・豊間根村・大沢村・織笠村・船越村の一町四カ村が合併し、新山田町が誕生する。
1960年(昭和35年)	チリ地震津波襲来。幸い死者は無かったが、多くの家屋の流失や全壊、床上・床下浸水等の被害を受けた。
1965年(昭和40年)	大沢・山田・織笠・船越中学校が統合して、新山田中学校が開校。
1969年(昭和44年)	織笠大橋開通。
1980年(昭和55年)	名誉町民鈴木善幸先生—第70代内閣総理大臣に就任。
2000年(平成12年)	オランダ王国ザイスト市と友好都市締結。
2002年(平成14年)	三陸縦貫自動車道山田道路開通。
2005年(平成17年)	合併50周年記念式典を開催。
2006年(平成18年)	県立山田病院が柳沢地区に移転開院。
2008年(平成20年)	鈴木善幸元内閣総理大臣像を町中央公民館前に建立。
2011年(平成23年)	東日本大震災。大津波が発生。本町の死者・不明者は825人。その他、家屋の流出や全壊等多くの被害を受けた。
2011年(平成23年)	山田町復興計画を策定。
2016年(平成28年)	県立山田病院(新築)が飯岡地区(山田中学校隣)に移転開院。
2016年(平成28年)	希望郷いわて国体高校野球(軟式)競技開催。

## 基本情報3 (鯨と海の科学館)

鯨と海の科学館 7月15日再開 (河北日報社 2017年06月17日)

東日本大震災で被災、休館していた岩手県山田町の「鯨と海の科学館」が、施設の復旧や展示品の修復を終えて7月15日に再オープンする。震災前と同規模の展示内容を維持し、新たに施設の復旧復興の様子を紹介する。

科学館は津波で床上約5メートルまで浸水。外壁などが損傷し、2000点あった展示用資料の半数近くが流失した。呼び物だった世界最大級のマッコウクジラの骨格標本(体長17.6メートル)は、土砂をかぶったものの大きな損傷はなかった。

スタッフは、東京海洋大や800人を超える市民ボランティアと共に展示品を洗浄、修復に取り組んできた。復旧費約9億2000万円は、災害復旧費と復興交付金を活用した。

湊敏館長は「皆さんの支援でようやく再開までこぎ着けることができた。訪れる人が楽しく、癒やされる空間にするので期待してほしい」と話した。

再オープンの7月15日は入館無料で午前10時から。通常の開館は午前9時～午後5時。火曜定休(祝日は開館)。入館料は一般300円(小中学生150円、高校生、大学生200円)。連絡先は0193(84)3985。



マッコウクジラの骨格標本と湊館長

### 山田の「鯨と海の科学館」、来月15日に再オープン(毎日新聞 2017年6月9日 地方版)

山田町は8日、東日本大震災で被災し休館中の町立「鯨と海の科学館」(同町船越)を7月15日に再オープンすると発表した。建物の復旧と収蔵資料のおおよその修復が終わったため、観光の復興に役立つと期待されている。

同科学館は、戦後の一時期、捕鯨基地として栄えた町の歴史を伝えようと、1992年に開館した。施設の目玉は、三陸沖で87年に捕獲された世界最大級のマッコウクジラの骨格標本。体長が17.6メートル、体重が60トンあり、油抜きするために砂浜に3年間埋めてから作られた。

震災では施設に津波が押し寄せ、約1000点あった収蔵資料が水と泥につかり、半数近くが流失した。天井からつり下げていた骨格標本も半分が水につかった。町は約8億4000万円をかけて、建物の復旧と収蔵資料の修復を急いできた。

湊敏館長は「大変な被害で多くの方に心配をおかけしたが、専門家の協力でどうにかここまでこられた。企画展を開いて再オープンを祝いたい」と話している。【鬼山親芳】

## 基本情報 4 (山田かき小屋)

2009年2月にオープンした山田町のかき小屋は、食べ放題と豪快さが話題を呼び開業以来人気のスポットでした。これからがシーズン本番という時期に、3月11日の大津波により小屋は全壊。しかし、山田町の観光復興を目指し、2011年10月29日に場所を移して「復興かき小屋」としてオープンしました。山田湾名物カキの養殖棚も深刻な被害を受けましたが、その中で無事だったものも多く関係者たちはあの津波を乗り越えたカキに勇気づけられ、再開の後押しとなりました。

今年のカキは実入りが大きく良好だとか。この元気でおいしいカキを味わっていただきたいと、震災前同様、40分食べ放題で提供しています。かき小屋の営業は、2012年ゴールデンウィーク明けまでを予定。春のカキはおいしさも格別だとか。皆さんもぜひ殻付きのカキ焼きで”口福体験”を試してみませんか！

メニューは蒸しガキ食べ放題のほか、かき玉丼、かき小屋特製海鮮焼きそばなど、単品メニューも用意しています。カキに良く合うワインやノンアルコールワインもあります。

※カキ食べ放題は完全予約制となっています。

岩手観光ポータルサイト「いわての旅」より

<http://www.iwatetabi-sanriku.jp/special/spot1.html>

岩手 山田町の「復興かき小屋」オープン 日本経済新聞 2011/10/29 23:31

岩手・山田町に観光客を呼び戻す第一歩として、津波で被害を受けたかき小屋が10月29日、「復興かき小屋」として復活した。

「観光客が名産のカキを食べられる施設を作りたい」と山田町観光協会が2009年2月、町水産センター内にかき小屋をオープンした。以来、人気を集めていたが、震災で施設が全壊。新しいかき小屋は同町浦の浜海水浴場近くに移転、新築された。

震災後、4月には復活へ向けて動き出したが、問題はカキの確保だった。山田湾のカキ養殖はほぼ壊滅。わずかに生き残ったカキの提供を漁師に依頼し、約20万個の確保にめどがたった。

建物の建設が大きく遅れ、引き渡されたのはオープンの直前。店のスタッフと観光協会職員総出で準備に追われた。かき小屋で使用する全量を提供する三陸やまだ漁協織笠支所。養殖いかだに生き残ったカキは、全体の1割未満という。オープンの日には約1600個を出荷した。

開店後、最初のお客さんの浅沼松江さん(右)はスタッフと顔なじみ。震災後初という再会を喜んだ。目の前で調理される殻付きカキの蒸し焼きは圧巻だ。鉄板のふたが開き、フワッと白い湯気が立ちこめると、大量のカキが目の前に現れる。盛岡市に住む渡部剛士さん(左)を訪ねて東京から来た一石真有美さんは「カキはあまり好きではなかったけれど、このカキはおいしくて食べられました」と話す。各テーブルにはスタッフが付き、殻を開けてくれる。前の店でも働いていた高橋久美子さんは「体が動作を覚えていた。だんだんのってきました」とテーブルを囲む客に次々と殻を開けては配っていく。

「復興かき小屋」の前に広がる山田湾。ここで育つカキの復活に店の未来がかかっている。

## 基本情報5 (新生やまだ商店街協同組合)

## 岩手県山田町 官民食い違い誕生する2つの商店街 (産経ニュース 2015/4/18)

東日本大震災から18日で1500日を迎えた。被災3県では少しずつ街の「輪郭」が見えてきた。土砂を満載した大型トラックが、海岸線に沿った国道45号からくしの歯のようにつながる県道や町道に次々と吸い込まれていく。向かう先は内陸側に数百メートル。岩手県山田町の中心市街地で運休中のJR山田線の陸中山田駅があった場所だ。

この一角の再開発が今年3月、宮城県女川町に続き、復興庁の「まちなか再生計画」の第2号に認定された。計画では駅を中心にまちなか再生区域を設定。建設面積約3300平方メートルの共同店舗を整備し、10店舗が入居する。建設費6億9千万円のうち約4億7千万円を、津波・原子力災害被災地域雇用創出企業立地補助金で賄い、平成28年3月の完成を目指す。

町が定めた“中心市街地”のかさ上げ工事が急ピッチで進む一方で、若手事業者らは駅から500メートル以上北に離れた国道沿いを新しい出発拠点と定めた。そこには、人口減少が進む未来への危機感がある。

## 観光客を積極誘致

「縮んでいくまちで商売を続けるには、観光客を積極的に入れ込まなければならない。車でやってくる人の利便を優先したまちづくりを考えないといけない」

若手事業者らでつくる新生やまだ商店街協同組合理事長の昆尚人さん(40)はそう話す。組合は、震災直後から新しい商店街の構想を練り続けてきた。その答えは、地元のスーパーを核にすでに数店の飲食店などが営業しているエリアへの集積だった。

昆さんらは今年1月に約3億円のグループ補助金の認定を受け、今秋、約10店舗で新しい商店街をオープンさせる。10年以上、商店街を持続させるために、若手や後継者に不安のない事業者をグループ加入の条件としたという。

昆さんは「行政がなんとかしてくれる、と思っていたら復興は進まない。まちの商業施設や、駅に先立ってできあがる新商店街は『まちが変わった』と目に見える最初の施設になる。自分たちのまちは自分たちでつくる」と気を吐く。

## 町民の利便性重視

昆さんらのグループは国道沿いのまちづくりを要望してきたが、町は再生計画に取り入れずに従来の駅中心のまちづくりを選んだ。

町によると、まちなか再生計画の共同店舗は、自分の店舗を持っていなかった被災経営者や、グループ補助金の対象から外れた人が事業を再開させるための救済の側面もあるという。

防潮堤で見えなくなる海を一望できる3階建ての交流施設、国際NGO団体「セーブ・ザ・チルドレン」の協力で建てられる図書館や郵便局、金融機関なども集まる。町の担当者は「確かに町は

車社会だが、まちづくりはやはり駅が中心。観光客誘致というより、町民向けという意味合いの方が色濃い」と話す。

JR東日本の案では、陸中山田駅のある区間の復旧は29年度中。共同店舗の完成から1～2年後となる。復興庁の“お墨付き”を得た町のまちなか再生計画と一足先を行く新しい商店街。連携の協議もまだ始まっていない。

町内に住む主婦（69）は「鉄道の復旧や再生計画など明るい話題があるようでも、何も変わっていない。復興した町の形はまだ想像できない」と話した。（高木克聡）

### 補助金2度不採択、くじけず再建へ 山田の商店街(岩手日報 2015/2/15)

津波で被災した山田町の22事業者でつくる新生やまだ商店街協同組合（昆尚人理事長）は今月から、被災店舗の本格再建に着手する。町が利用者を募っていた同町中央町の土地を借り、約10社の「本設」店舗と約80台分の駐車場を整備し、国道45号沿いに新たな商店街をつくる。町の復興につなげようと、民間主導で再建を模索してきた同組合の一步は、被災した町を活気づける力になりそうだ。

予定地は国道45号沿いの土地で、広さ約5300平方メートル。浸水地で、数十センチのかさ上げ工事が進む。整備が終わった場所から順次再建、オープンで、最も早い店舗は今月中に着工する。

商店街には、飲食店や写真スタジオ、生花店やタクシー会社など多様な事業者が参加。新たにコンビニエンスストアも加わり、約10店が軒を並べる計画で、今年中の全店舗完成を予定する。

現在の組合員らは震災後早くから、被災企業を支援するグループ補助金の採択を目指したが、申請は2度退けられた。大槌町の事業者と協力するなどの試行錯誤も実らなかった。2012年夏には、町内の業者だけで新生やまだ商店街協同組合を結成し、再スタート。震災後休止していた定期市「いちび」を復活させ、地域活性化の道を模索。組合員による震災語り部事業も始め、これまでに4千人以上が利用した。13年1月、三度目の正直で補助金が採択された。

昆理事長は「やっところまで来たなという思いだが、店ができて終わりではない。商店街を継続できるよう、これからの長い道のりを走っていきたい」と気を引き締め、「新生商店街」の未来図を描く。

【写真＝建設予定地で期待を膨らませる昆尚人理事長（後列左から3人目）ら新生やまだ商店街協同組合の組合員＝山田町中央町】



## 6名の参加者の方に当日の様子をレポートしていただきました

K: 現状を知りたかった (盛岡市・60代・女)

M: 被災後沿岸部に行ったことがなかったが、今回は何かの縁と思い参加した (盛岡市在住・宮城県出身・40代・男)

H: いつも車で素通りしている山田の町をじっくりみてみたいから (盛岡市・60代・男)

T: 語り部のお話を聞きたいと思ったから (盛岡市・60代・女)

I: 震災学習に興味があったので参加しました (岩手県滝沢市在住・福島県出身・学生・男)

G: 復興状況を知りたかったので参加しました (岩手県出身・学生・男)

S: 震災学習をシステムでサポートするため (岩手県出身・学生・男)

### 1) 鯨と海の科学館

「鯨クイズ」をすることでより深く鯨の生態について学ぶことができた(S)／鯨のことを知ることで、山田の海に興味を持った(G)／鯨の骨格標本に驚いた(M)

### 2) 鯨と海の科学館(湊館長の講話)

震災時の被災状況を細かく写真を撮影していてすごいと思った(S)／被災して多くの資料が流された場所とは思えないほど充実していると感じた(G)／ボランティアをはじめ多くの方の協力があって今の科学館があると知った(T)／復旧作業の大変さが話を聞いていてよく分かった(M)

### 3) 山田かき小屋

おいしく海の味を堪能できた(T)／牡蠣は季節のものなので維持管理が大変だと思った(K)／就労状況は芳しくなく震災はまだ終わっていない課題だと思った(M)

## 4) 新生山田商店街(被災ガイド+体験)

実際に歩いて回ることによって被災後の姿や復興状況などがよくわかった(S)/海、港の様子を見て復興がまだまだなの分かった(K)/盛岡ではできない、牡蠣剥き、のしか体験をすることができてよかった(M)/やっと山田でもこのような体験学習ができることを実感した(H)/ガイドの人が詳しくよく勉強されていると感じ参加したかいがあった(T)

## 5) 道の駅やまだ

お土産を買ったら喜んでくれてよかった(M)/震災の写真が貼ってあり震災に負けないという強いパワーを感じた(S)

## その他、参加してみても感想等

### ・現地取材の評価

とても評価できる--5人 まあ評価できる--2人 どちらともいえない--0人  
あまり評価できない--0人 全く評価できない--0人

震災前後の景色の移り変わりを感じることができた(S)/見る聞くだけでなく普段できない体験を多くできた。主体的に参加できたので満足(G)/6年経ってどれくらい元に戻ったのかを知りたかった(K)/震災を通して学ぼうということからも、参加者全員でできるスケジュールの方がよかったと思う(M)/報道では気付かないことを気付くことができた。(T)

### ・特に印象に残っていることについて

かきむき体験をはじめてやったこと(S)/ 織笠地区の国道 455 線嵩上げ関係の工事、高台移転の遅れ(H)/「やまだふれあいセンター」は子供たちの未来がつまった建物だと感じた(M)

### ・人に勧めたいですか

勧める--4人 どちらともいえない--1人 勧めない--1人 無回答--1人

山田の魅力を存分に体感できたと感じたから—勧める(S)/震災学習としてよいフィールドワークだと感じたから—勧める(I)/山田に行った話はするが行くかどうか本人が決めること (K)

- ・ご意見・ご感想

被災した山田町が変わっていく姿を町の随所に見られた(M)／コンパクトシティにという町民の気持ちも伝わり、はやく復興が進んでほしい(M)／山田の人ももっと宣伝してこういうフィールドワークをもっとやってもいいと思った(H)／取材を知識に結び付けることが大事だと思った(T)

- ・その他

将来のために震災について勉強をしなければと思った(M)